

研究計画書

令和3年12月吉日

所属：看護科・東5階、中央検査処置室

主研究者：山崎 克仁

共同研究者：寺本 世奈 木村 真吾 中原 百合子 西政 萌 大野 恵里

研究テーマ：脳血管内治療・検査におけるパンフレット指導の効果
～病棟看護師によるアンケート調査から～

1. 研究の背景（動機と意義）

当院では、年間約140件の脳血管内治療、検査が行われる。そのうち、定期（予約、待機的）検査、治療が8割を占める。脳血管内治療、検査における入院期間は通常、検査のみであれば3日間、治療が行われた場合であれば7日前後である。

現在、定期で行われる脳血管内治療、検査における入院期間中の過ごし方については、検査、治療説明時に医師から、入院中に病棟看護師から指導を行っている。看護師からの指導においては統一した媒体や規則はなく、病棟で担当した看護師それぞれの経験や知識により指導内容はさまざまである。

また、脳神経外科病棟所属の看護師約30名に対し、事前アンケートを行った結果、「治療前後の食事、安静度、前処置、血管造影室の注意点、退院後の生活などの指導について自信を持って行えているか」との問いに約半数以上が“行えていない”と回答した。また、自由記載では「知識が少なく、指導する内容を自分自身が理解できていない」や「先輩から教えてもらったことには注意して行っているが不安がある。」「統一した指導は行えていないように感じる」との記載があった。この結果から担当看護師の指導力によって指導内容に差があることや、病棟看護師が不安を抱えながら指導を行っていることがわかった。

そこで今回、医師、病棟看護師、血管造影室看護師が協力しパンフレットの作成を行い、さらに、パンフレットに関する勉強会を行うことで、看護師の経験や知識にかかわらず統一した指導を行えるよう取り組みを行った。取り組みの効果について病棟看護師に対し、アンケートを用いて意識調査を行う。

2. 研究目的

病棟看護師に対し、動画による勉強会、及び統一したパンフレットを作成し指導することによる効果をアンケート調査にて検討する。

3. 研究方法

- 1) 対象：A病院脳神経外科病棟看護師 約30名
- 2) 研究デザイン：実態調査研究
- 3) データ収集方法：無記名自記式質問紙（別紙参照）
- 4) データ収集期間：2022年1月～2022年8月
- 5) 勉強会内容：パンフレットの解説（パンフレットについては別紙にて提示）

血管内治療・検査における前中後の看護師の役割について

勉強会方法：動画作成し、院内HPでいつでも閲覧可能にし、スタッフ全員に閲覧してもらう予定。

4. 倫理的配慮

本研究は自由参加であり、不参加の場合でも不利益は一切ないことを説明する。また、アンケートの提出をもって研究参加に同意したものとみなす。得られたデータは研究以外で使用しないこと、個人情報の守秘を保証し、研究結果は学会や研究論文として発表することを研究協力者に説明する情報をパソコンでまとめ、データをセキュリティ USB に保存する。データの管理は鍵のかかるところに厳重に保管し、5年間の保存を行う。

〈引用・参考文献〉

- 1) 大峠敬洋他：脳血管内治療患者の退院指導パンフレットのい改善をもたらす効果、JSNET Vol.4 No.4 November2010
- 2) 秋山佳菜ほか：脳血管内治療後の穿刺部合併症予防パンフレットの作成とその評価～生活に寄り添ったパンフレットを目指して～、BRAIN NURSING、Vo.32 No.9、2016